

PANDORA

PX3T

Personal Multi Effect Processor

取扱説明書

TONEWORKS
GUITAR HYPERFORMANCE PRODUCTS
KORG

① ②

安全上のご注意

火災・感電・人身傷害の危険を防止するには

以下の指示を守ってください

警告



本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。

ACアダプターを使用する場合は、必ずAC100Vの電源コンセントにACアダプターを差し込んでください。

次のような場合には直ちに電源を切り、ACアダプター使用時はコンセントから抜きます。そして、コルグ営業所またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

ACアダプターの電源コードやプラグが破損したとき
異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
製品が(雨などで)濡れたとき
製品に異常や故障が生じたとき



次のような場所での使用や保存はしないでください。

温度が極端に高い場所(直射日光のあたる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
ホコリの多い場所



修理 / 部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。

ACアダプターのコードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。コードに傷がつき危険です。

本製品をヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程度の音量で長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対に付けないでください。



本製品およびACアダプターを分解したり、改造したりしないでください。

注意



本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このため他の電気機器を接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆に他の電気機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。

ACアダプターをご使用になる場合は、必ず指定のものをご使用ください。他のアダプターをご使用になりますと故障の原因となります。また、使用後はACアダプターをコンセントから抜いてください。

ACアダプターは他の電気機器の電源コードといっしょにタコ足配線することは危険です。

長期間使用しない場合は、電池の液漏れを防ぐために電池を抜いておいてください。



スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。

外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。



ACアダプターをコンセントから抜くときは、絶対にコードを引っばらないでください。故障の原因となります。

目次		プレイ・モード.....	13
はじめに	6	1 .プログラムの選択.....	13
主な特長	6	2 .マスター・レベル	13
電池の入れ方	7	3 .バイパス/ミュート	13
バッテリー・エンプティ表示	7	4 .チューナー	14
各部の名称	8	5. HBB(Hyper Bass Boost).....	14
LCDの表示	9	6 .バリュー・ダイヤル機能設定	15
接続しよう	10	リズム&ベース・モード.....	16
音を出してみよう	11	1. リズム・パターン	16
1. ヘッドホン、ライン、ギター・アンプを使用する場合	11	2. テンポ	6
2 .FMトランスミッターを使用する場合(FMトランスミッターの使い方)	11	3. ベース ON/OFF&ベース・キー	16
		4.リズム&ベース・レベル	17
		AUXエフェクト・モード	18

フレーズ・トレーナー・モード	19	8)RENAME(リネーム)	24
1. 録音モードの選択	19	9)TX(FMトランスミッター)	24
2. 録音中	20	10)WRITE(ライト)	24
3. 再生	20	3. 工場出荷時のプログラムの再ロードのしかた	25
4. 一時停止	21	故障かな?と思ったら	26
録音し直すときは	21	エフェクト・パラメーター	28
エディット・モード	21	インテリジェント・ピッチ・シフターについて ...	30
1 エディットするエフェクトの選択	21	プリセット・プログラム・リスト	32
2 各エフェクトのエディット	22	リズム・パターン・リスト	33
1)DRIVE(ドライブ)	22	仕様	34
2)TONE(トーン)	22		
3)MOD(モジュレーション)	22		
4)AMB(アンビエンス)	22		
5)CR(キャピネット・レゾネーター)	23		
6)NR(ノイズ・リダクション)	23		
7)LEVEL(レベル)	24		

はじめに

このたびは、ToneWorks **パーソナル・マルチ・エフェクト・プロセッサ**PANDORA PX3Tをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。PANDORAを末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保管してください。

主な特長

PANDORAはコンパクトなサイズながら多機能なマルチ・エフェクターです。

56タイプのエフェクト・バリエーション

最大7種類のエフェクトを同時に使用できます。

50ユーザー・プログラム、50プリセット・プログラム

IPE(Integrated Parameter Edit)システム

プログラムを簡単にエディットできます。

FMTランスミッター内蔵

FMラジオやFMチューナーでPANDORAの音を聞くことができます。

オート・チューナー機能

すばやくチューニングできます。また、音を出さずに(ミュート機能)チューニングすることもできます。

LCDバックライト

暗い所でもLCDの表示を見ることができます。

リズム&ベース機能

40種類のリズム&ベース・パターン、またはメトロノームを鳴らすことができます。

AUXエフェクト機能

AUX端子に接続したCDプレーヤ等の音をキー・トランスポーズしたり、センター・キャンセルすることができます。

フレーズ・トレーナー機能

CDプレーヤ等の音を録音し(最大16秒間)ループ(繰り返し)再生します。ピッチ(音の高さ)を固定して再生スピードを落とすことができます。

キャビネット・レゾネーター

6種類のギター・アンプの箱鳴りが選べます。

HBB(Hyper Bass Boost)

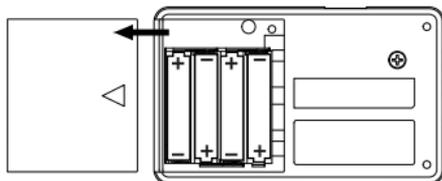
小さなヘッドホンを使用しているときでも、迫力ある低音が得られます。

バリュー・ダイヤル

プログラムの選択やエフェクトのエディット等がすばやくできます。

電池の入れ方

ケース裏側の電池カバーを、矢印の方向にスライドして外します。単4型アルカリ乾電池(別売)4本を図のように入れます。向きを間違えないように注意してください。



バッテリー・エンプティ表示

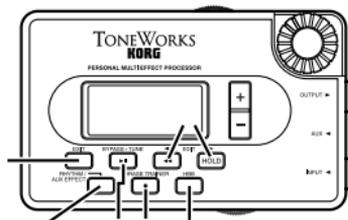
電池容量が少なくなると、バッテリー・エンプティ・アイコン  が点灯します。アイコンが点灯したら、なるべく早く電池を交換してください。

電池を外しても、プログラム等(エディット中のものは除く)は消えません。

 使えなくなった電池は、すぐにPANDORAから外してください。そのままにしておくと、故障の原因(電池の液漏れ等)となります。また、長時間ご使用にならないときも、電池を外しておいてください。

 電池とACアダプターは付属されていません。別途にお買い求めください。

各部の名称



パワー・スイッチ / バックライト・スイッチ

電源のON/OFFとLCDバックライトのON/OFFに使用します。

 電池で使用した場合、バックライトをONにすると、動作時間が短くなります。

DC9V

別売のACアダプター(コルグ A30960J DC9V )を使用する場合、ここに接続します。

バリュー・ダイヤル

マスター・レベルの調整、エフェクトのエディット、プログラムの選択に使用します。

OUTPUT 端子

ギター・アンプ、ヘッドホン等を接続します。

AUX 端子(ステレオ)

CDプレーヤー等を接続します。

INPUT 端子

ギターを接続します。

+ / - ボタン

プログラムの選択、エフェクトのエディット、マスター・レベルの調整に使用します。

入力レベル・スイッチ

ギターの出力に合わせて設定します。

EDIT [<<<] / [HOLD] ボタン

エディットするパラメーターの選択や、フレーズ・トレーナーの操作に使用します。

HBB(Hyper Bass Boost) ボタン
HBBのON/OFFに使用します。

PHRASE TRAINER [●] ボタン
フレーズ・トレーナー・モードに入ります。また、フレーズ・トレーナーの録音を開始するときに使用します。

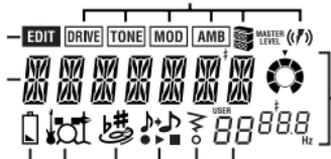
BYPASS・TUNE [▶ ||] ボタン
プレイ・モードでチューニングするときを使用します(バイパスまたはミュートされます)。また、エフェクトのON/OFFやフレーズ・トレーナーの再生 / 一時停止に使用します。

RHYTHM/AUX EFFECT ボタン
リズム&ベース・モード、またはAUXエフェクト・モードに入ります。

EXIT ボタン

どのモードからでもプレイ・モードに戻ります。また、バリュー・ダイヤルに機能を割り当てるときに使用します。

LCD の表示



エフェクト・チェイン

ドライブ、トーン、モジュレーション、アンピエンス、キャビネット・レゾネーター、HBB の ON/OFF を表示します。

バリュー・ディスプレイ

マスター・レベルやパラメーターの値を数値とグラフで表示します。

(マスター・レベルを表示しているときは MASTER LEVEL が点灯します。)

プログラム・ナンバー表示

プログラム・ナンバーを表示します。(ユーザー・プログラムが選ばれているときは USER が点灯します。)

FMステレオ・トランスミッター・アイコン

FMステレオ・トランスミッターを ON にしたときに点灯します。

フレーズ・トレーナー・モード・アイコン

フレーズ・トレーナー・モードに入ったときに点滅します。

AUXエフェクト・モード・アイコン

AUXエフェクト・モードに入ったときに点滅します。

リズム&ベース・モード・アイコン

リズム&ベース・モードに入ったときに点滅します。

バッテリー・エンプティ・アイコン

電池容量が少なくなったときに点灯します。

プログラム名 / エフェクト・タイプ表示

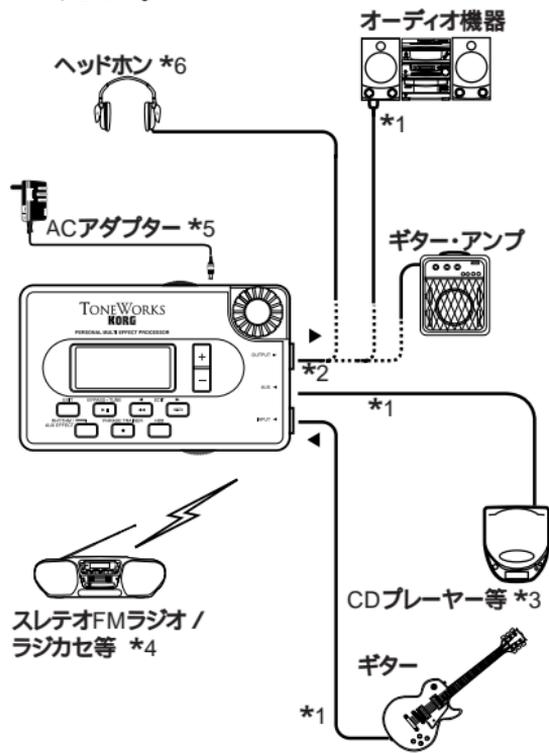
プログラム名やエフェクト・タイプ等を表示します。また、バイパス / ミュート時にチューナーのメーターとなります。

エディット・モード・アイコン

エディット・モードに入ったときに点灯します。

接続しよう

接続する機器の電源はOFFにし、各ボリュームは下げてください。



*1 接続ケーブルは別売です。

*2 PANDORAのOUTPUTは、ステレオ出力になっています。モノラル標準ケーブルでギター・アンプ等に接続したときはLチャンネル(左側)の音が出力されます。

*3 AUX端子にCDプレーヤー等を接続すれば、音楽に合わせてギターを演奏することができます。音量は、接続機器側で調整してください。

*4 PANDORAのFMトランスミッター機能を使えば、ギター・アンプ等を用意しなくても、FMラジオで音を出すことができます。

*5 ACアダプターを使用する場合は、必ず指定のものを使用してください。DC9V ⊕ ⊖ ⊖ (別売 A30960J)

*6 使用するヘッドホンによっては、PANDORAの音量、音質が多少異なって聞こえることがあります。PANDORAのサウンドを十分お楽しみいただくために、なるべく性能の良いヘッドホンを使用してください。(インピーダンスが32Ω以下で出力音圧レベルが100dB/mW以上のヘッドホンをお奨めします。)

音を出してみよう

1. ヘッドホン、ライン、ギター・アンプを使用する場合

接続を終えたら、**パワー・スイッチ**を“ON”にします。(この状態をプレイ・モードと呼びます。)+/- **ボタン**でプログラムを選びます。音量のチェックに適したクリーン系のプログラムを選びます。(ここでは例として Program 5“ WES ”を選びます。)



使用するギターの出力の大きさに合わせて、**入力レベル・スイッチ**を設定してください。

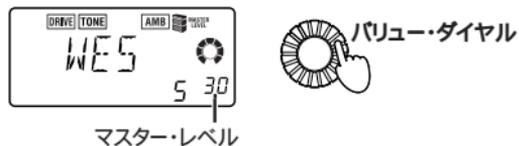


H: 出力の大きいギター(ハムバックタイプ)のピックアップ または ベース等

L: 出力の小さいギター等(シングルコイルタイプ)のピックアップ)

ギターのボリュームを、通常演奏する程度に合わせて弾いてみます。

バリュー・ダイヤルでマスター・レベルを調整します。



2 .FMトランスミッターを使用する場合(FMトランスミッターの使い方)

PANDORAの送信周波数(88.1 ~ 89.9MHzの範囲で設定)とFMラジオの受信周波数を合わせると、FMラジオでPANDORAの音を聞くことができます。

プレイ・モードでEDIT ▶ **ボタン**を押します。(この状態をエディット・モードと呼びます。)

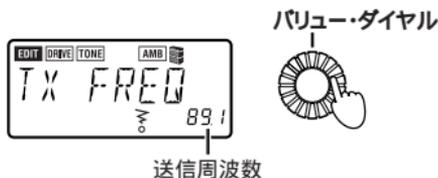
EDIT ▶ **ボタン**を何回か押して、トランスミッターのアイコンが点滅している画面を選びます。



BYPASS・TUNE **ボタン**を押して、トランスミッターをONにします。

ONにすると、約1秒間“TX ON”と表示されます。その後、“TX FREQ”と表示されます。

バリュー・ダイヤルで送信周波数を89.1MHz(例)にします。



ギターを弾きながら、FMラジオの受信周波数を89.1MHzに合わせます。

EXIT **ボタン**を押して、プレイ・モードに戻ります。

FMトランスミッターは、FMラジオと同じ部屋の中で3m以内の範囲で使用してください。また、放送局の周波数からできるだけ離れた周波数を選んでください。選んだ周波数や環境によって、出力音に「ピー」という音が混ざることがあります。このようなときは、周波数を変更して使用してください。

プログラムの設定やFMラジオによっては、ラジオからの出力が歪む場合があります。このようなときは、マスター・レベルやエフェクトのプログラム・レベルを歪まなくなるまで下げてください。

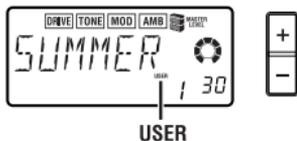
FMトランスミッターをONにしておくと、電池の消耗が早くなります。FMトランスミッターを使用しないときは、FMトランスミッターをOFFにしておいてください。

プレイ・モード

通常の演奏を行うモードです。

1.プログラムの選択

プログラム(音色)は、50個のユーザー・プログラムと50個のプリセット・プログラムから選ぶことができます。+/- ボタンを押して、プログラムを選びます。ユーザー・プログラムが選ばれると、プログラム・ナンバーの上に USER が点灯します。



プログラムはリズム&ベース・モード、AUXエフェクト・モード、フレーズ・トレーナー・モードに入っているときでも選択できます。

2.マスター・レベル

MASTER LEVEL が点灯しているときは、マスター・レベルがバリュー・ディスプレイに表示されます。



バリュー・ダイヤル

バリュー・ディスプレイ

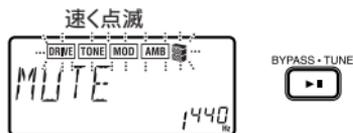
電源をONにした直後は、バリュー・ダイヤルでマスター・レベルを変更する設定になっています。+/- ボタンでマスター・レベルを変更することもできます。(P.15) マスター・レベルは、電源をOFFにしても記憶されます。

3.バイパス/ミュート

BYPASS・TUNE ボタンを押すとバイパス状態になり、エフェクトのかからない音が出力されます。エフェクト・チェーンが点滅し、約1秒間“BYPASS”と表示されます。



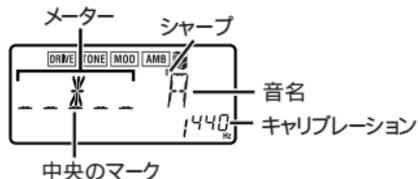
BYPASS・TUNE ボタンを1秒以上押すとミュート状態になり、音が出なくなります。エフェクト・チェーンが速く点滅して、約1秒間“MUTE”と表示されます。



もう一度BYPASS・TUNEボタンを押すか、プログラムを変更すると、バイパス / ミュートが解除されます。

4. チューナー

プレイ・モードでバイパス / ミュートにすると、チューナーが動作します。



ギターの弦を弾いてください。LCDに音名とキャリブレーションが表示されます。音名より半音高いときは、音名の左上にシャープが点灯します。

文字表示の部分がメーターになり、ピッチ (音の高さ) のズレを表示します。

中央のマークの上が点灯するように、弦をチューニングしてください。

BYPASS・TUNEボタンを押すか、プログラムを変更すると、チューナー (バイパス / ミュート) が解除されます。

キャリブレーション (基準ピッチ A の周波数)

キャリブレーションは、パリュー・ダイヤルで A=438 ~ 445Hz の範囲で変更できます。

キャリブレーションの変更は、電源をOFFにするまで有効です。一度電源をOFFにし、再び電源をONにしたときは A=440Hz になります。

5. HBB (Hyper Bass Boost)

小さなヘッドホンを使用したときに、損なわれる低音を補います。ギター・アンプやミキサーに接続した場合でも、重低音と音の張りを強調した効果が得られます。

HBBボタンでHBBのON/OFFを切り替えます。HBBがONになるとLCDにHBBアイコン (♩) が点灯します。電源をOFFにしても、HBBのON/OFFの状態は記憶されます。再度電源をONにしたときに同じ状態になります。

▲ バイパス / ミュート時には、ON/OFFの切り替えはできません。

6 .バリュウ・ダイヤル機能設定

バリュウ・ダイヤルにプレイ・モード時の機能を割り当てます。プレイ・モードで、EXIT ボタンを押しながらEDIT ◀ ボタン、EDIT ▶ ボタンまたはBYPASS・TUNE ボタンを押すと、以下の機能が割り当てられます。

⚠ この設定は、バイパス/ミュートでは変更できません。

EXIT ボタンを押しながら、EDIT ◀ ボタンを押します。

LCDに約1秒間“ MASTER ”と表示されます。



バリュウ・ダイヤルにマスター・レベルが、+/- ボタンにプログラムの選択が割り当てられます。バリュウ・ダイヤルでマスター・レベルをすばやく変更できます。電源をONにしたときは、常にこの設定になります。

EXIT ボタンを押しながら、EDIT ▶ ボタンを押します。

LCDに約1秒間“ PROGRAM ”と表示されます。



バリュウ・ダイヤルにプログラムの選択が、+/- ボタンにマスター・レベルが割り当てられます。バリュウ・ダイヤルで、プログラムをすばやく選ぶことができます。

EXIT ボタンを押しながら、BYPASS・TUNE ボタンを押します。

LCDに約1秒間“ KEYLOCK ”と表示されます。



+/- ボタンにプログラムの選択が割り当てられ、その他のボタンとバリュウ・ダイヤルは機能しません(キー・ロック)。プログラムの選択しかできませんので、ステージ等で使用したときに誤操作を防げます。

設定を変更するには、もう一度EXIT ボタンを押しながら、その設定のボタンを押してください。

リズム&ベース・モード

プレイ・モード(ミュート/バイパス キー・ロック時を除く)、AUX エフェクト・モード、フレーズ・トレーナー・モードで RYTHM/AUX EFFECT ボタンを1回押すと、リズム&ベース・モードに入ります。

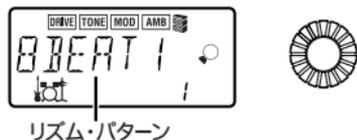
このモードに入ると、選ばれているリズムがスタートし、リズム&ベース・モード・アイコンが点滅します。バリュー・ディスプレイの表示が、パターンやテンポに合わせて変化します。

このモードでは、以下の4つのパラメーターがあります。EDIT ◀ / ▶ ボタンでパラメーターを選び、バリュー・ダイヤル、BYPASS・TUNEボタンで、それぞれのパラメーターの値を設定します。



1. リズム・パターン

リズム・パターン(40種類)を選びます。



リズム・パターン

バリュー・ダイヤル: リズム・パターンを選択

2. テンポ

♩ = 40 ~ 208の範囲でテンポを設定します。



テンポ表示

バリュー・ダイヤル: テンポを設定

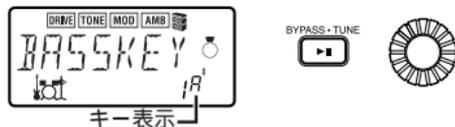
3. ベース ON/OFF & ベース・キー

ベース音のON/OFFとベース音ON時のキー(調)を設定します。

この画面でBYPASS・TUNEボタンを押すと、リズムに

合わせてベース音が鳴ります。選んだリズム・パターンによっては、コード進行するベース・ラインもあります。

ベース音のキーは **バリュース・ダイヤル** で C、C# ~ A#、B の範囲で設定できるので、キーに沿ったスケール(音階)で、アドリブ・ソロを練習することができます。コード進行するベース・ラインのときも、設定したキーに沿ったスケール・ノート(音階音)を弾けば、ベース・ラインに合ったアドリブ・ソロになります。



BYPASS・TUNE ボタン: ベース音の ON/OFF

バリュース・ダイヤル: ベース音のキーを設定

リズム・パターンに METRONM(メトロノーム)が選ばれているときは、ベース音は鳴りません。また、この画面も表示されません。

4. リズム&ベース・レベル

リズム&ベース音のレベルを設定します。ベース音は、ベースが ON になっているときのみ有効です。



バリュース・ダイヤル: リズム&ベース音のレベルを設定

AUXエフェクト・モード

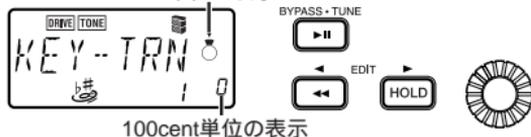
このモードでは、AUX端子に接続されたCDやMDの音をキー・トランスポーズ (KEY-TRN) したり、中央に定位したギターやボーカルの音を消すセンター・キャンセル (CC) ができます。

リズム&ベース・モードでRHYTHM/AUX EFFECT ボタンを1回押すと、AUXエフェクト・モードに入ります。

このモードに入ると、AUXエフェクト・アイコンが点滅します。

KEY-TRN表示

10cent単位の表示



100cent単位の表示

CC表示



EDIT ◀ / ▶ ボタン: KEY-TRNまたは、CCの表示切り替え

BYPASS・TUNE ボタン: KEY-TRN、CCのON/OFF

バリュー・ダイヤル: トランスポーズの値を設定

+ / - ボタン: プログラムの選択

キー・トランスポーズの可変幅は、 ± 1 オクターブです。キーを上げるときは、上3半音まで10cent刻みで、それ以上は半音(100cent)刻みです。キーを下げるときは、下3半音まで10cent刻みで、それ以上は半音(100cent)刻みです。

▲ KEY-TRNまたはCCがONのときは、モノラル出力となります。KEY-TRN とCCの両方がOFFのときは、ステレオ出力となります。

▲ このモードに入ると、MOD(モジュレーション)とAMB(アンビエンス)のエフェクトが自動的にOFFになります。

▲ CCは、入力ソースによっては(モノラル録音、特殊効果録音等)十分効果がでない場合があります。

フレーズ・トレーナー・モード

AUX端子に接続されたCDやMDからフレーズを録音して、ループ(繰り返し)再生します。それに合わせて、フレーズの繰り返し練習をすることができます。

また、ピッチ(音の高さ)を固定して再生スピードを落とすことができるので、聞き取りにくいフレーズのコピーや練習に役立ちます。

 このモードに入ると、MOD(モジュレーション)、AMB(アンビエンス)とAUXエフェクトが自動的にOFFになります。

1. 録音モードの選択

プレイ・モード(バイパス/ミュート、キー・ロック時を除く)、リズム&ベース・モード、AUXエフェクト・モードでPHRASE TRAINER  ボタンを押して、フレーズ・トレーナー・モードに入ります。



PHRASE TRAINER



このモードに入ると、録音モードの選択画面が表示され、フレーズ・トレーナー・モード・アイコンが点滅します。この画面で録音待機状態となります。

ここでは、録音モード(SHT:高音質、LNG:長時間)を選びます。

SHTでは最大8秒間、LNGでは最大16秒間の録音ができます。録音するフレーズに応じて選んでください。

バリュー・ダイヤル: 録音モードを選択

[●]ボタン: 録音開始

CD等をスタートさせ、録音を開始したいところで  ボタンを押してください。録音を開始します。

 いったんフレーズを録音してしまうと、録音モードは変更できません。録音モードを変更したいときは、一度他のモードに抜けてから再度フレーズ・トレーナー・モードに入ってください。

2. 録音中

[●] ボタンを押して録音を開始すると、録音時間が数値とバリュー・ディスプレイで表示されます。



録音を終了したいところで、[●] ボタンまたは[▶ ||] ボタンを押してください。

録音が終了して、自動的にループ再生を開始します。

録音を途中で終了しないかぎり、選んだ録音モードの最大時間まで録音します。

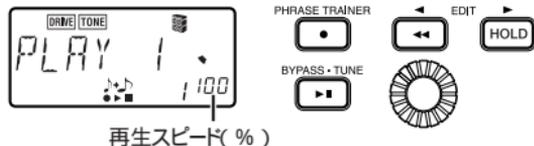
フレーズは、モノラルで録音 / 再生されます。

[●] ボタン / [▶ ||] ボタン: 録音終了、再生開始

3. 再生

録音したフレーズをループ再生します。

再生 / 一時停止中は、+ / - ボタンでプログラムを選択できます。



バリュー・ダイヤルを左に回すと、ピッチを固定して再生スピードを落とすことができます。

再生スピードは、100% 95% 90%...25%と5%刻みで減速できます。

また、再生時に[HOLD] ボタンを押すと、押した時点の音を保持することができます(ホールド機能)

[▶ ||] ボタン: 一時停止 / 再生

[●] ボタン: 再録音

[◀◀] ボタン: 巻戻し

[HOLD] ボタン: ホールド機能 ON/OFF

バリュー・ダイヤル: 再生スピード設定

EXIT ボタンまたは RHYTHM/AUX EFFECT ボタンを押すと、録音されたフレーズは消去されます。

4. 一時停止

[▶||]ボタンを押すと、再生が一時停止します。もう一度[▶||]ボタンを押すと、再生を開始します。



一時停止中に[◀◀]ボタンを押すと、録音したフレーズの先頭に戻ります。

[▶||]ボタン: 一時停止 / 再生

[●]ボタン: 再録音

[◀◀]ボタン: 頭出し

バリュー・ダイヤル: 再生スピード設定

録音し直すときは

録音し直すときは [▶||]ボタンを押して一時停止にします。一時停止中は、AUXに接続された機器の音が出力されます。この状態で、入力ソースの頭出しができます。CD等をスタートさせ、録音を開始したいところで[●]ボタンを押してください。

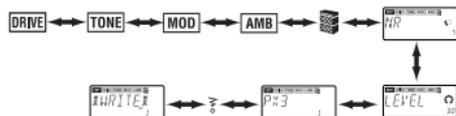
エディット・モード

各エフェクトのON/OFF、エフェクト・タイプ、パラメーターの値、FMTトランスミッター等をエディットすることができます。プレイ・モードでEDIT ▶ ボタンを押すと、エディット・モードに入ります。

1 .エディットするエフェクトの選択

EDIT ◀ / ▶ ボタンで、エディットするエフェクトを選択してください。

EDIT ◀ / ▶ ボタンを押すごとに、下図の順にエフェクトを選ぶことができます。エフェクトが選ばれているときは、そのアイコンが点滅します。



OFFになっているエフェクトは、エディットできません。エフェクトをONにするときは、EDIT ◀ / ▶ ボタンでエフェクトを選び、BYPASS・TUNE ボタンを押します。

2 各エフェクトのエディット

各エフェクトのエフェクト・タイプ、エフェクトの種類や、それぞれのパラメーターの値を設定することができます。エフェクト・タイプとパラメーターの詳細については、エフェクト・パラメーター・リスト(P.28)を参照してください。

1)DRIVE(ドライブ)

コンプレッサー、オーバードライブ、ディストーション等の主にギターの色を作るエフェクトです。



BYPASS・TUNE ボタン: エフェクトのON/OFF
+ / - ボタン: エフェクト・タイプを設定
バリュー・ダイヤル: パラメーターの値を設定

2)TONE(トーン)

音質を調整します。



BYPASS・TUNE ボタン: エフェクトのON/OFF

+ / - ボタン: 高域、低域を選択

バリュー・ダイヤル: 各帯域のブースト/カット量を設定

3)MOD(モジュレーション)

コーラス、フランジャー、フェイザー、ピッチ・シフター等の変調系エフェクトです。



BYPASS・TUNE ボタン: エフェクトのON/OFF

+ / - ボタン: エフェクト・タイプを設定

バリュー・ダイヤル: パラメーターの値を設定

4)AMB(アンビエンス)

ディレイ、リバース等の残響系エフェクトです。



BYPASS・TUNE ボタン: エフェクトのON/OFF

+ / - ボタン: エフェクト・タイプを設定

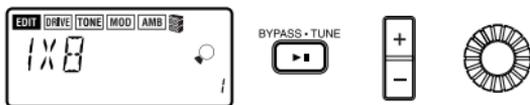
バリュー・ダイヤル: エフェクト・レベルを設定

-  MOD(モジュレーション)のインテリジェント・ピッチ・シフターとAMB(アンビエンス)のROOM1~ARENAのエフェクトは同時に使用することができません。後から選んだエフェクトのみが有効になります。例えばMODがMAJ3UP~MAJ6THになっているときに、AMBでROOM1を選ぶと、MODが自動的にOFFになります。

5)CR(キャビネット・レゾネーター)

ギター・アンプのキャビネットの音響特性をシミュレートします。

特にアンプを使わないとき(ヘッドホン、ミキサー、HDR、オーディオ機器等を接続)に効果的です。



BYPASS・TUNE ボタン: エフェクトのON/OFF

+ / - ボタン: キャビネット・タイプを設定

バリュー・ダイヤル: 効果の深さを設定

6)NR(ノイズ・リダクション)

ノイズ・リダクションのかかり具合を調整します。値を大きくするほど、ノイズを抑える効果は強くなります。通常は、ギターの弦を軽くミュートしたときに、ノイズが気にならない程度に調整します。



バリュー・ダイヤル: ノイズ・リダクションのかかり具合を調整

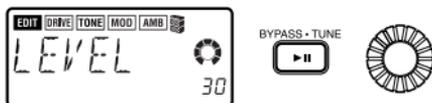
-  ノイズ・リダクションは、OFFになりません。

-  値が大きすぎると、接続する楽器によっては音が途切れることがあります。そのときは、値を下げてください。

7) LEVEL(レベル)

各プログラムのレベルを設定します。

DRIVE、TONEの設定によっては、出力が歪んで(クリップ)してしまう場合がありますので、ここで歪まない程度に調整してください。



バリュー・ダイヤル: 各プログラムのレベルを調整

 使用するギターによって、各プログラムの音量が変化します。ギターに合わせて、レベルを調整してください。

8) RENAME(リネーム)

プログラムの名前(7文字)を設定できます。



+/- ボタン: カーソル(点滅します)の移動

バリュー・ダイヤル: 文字を設定

使用できる文字は空白、0~9、A~Z、”、”、*、+、-、/、です。

9) TX(FMトランスミッター)

FMトランスミッターのON/OFFと、送信周波数を設定します。

送信周波数は88.1MHzから89.9MHzまで、0.2MHz刻みで設定できます。



BYPASS・TUNE ボタン: FMトランスミッターのON/OFF

バリュー・ダイヤル: 送信周波数を設定

FMトランスミッターの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

10) WRITE(ライト)

エディットしたプログラムや、自分で作ったプログラムをライト(記憶)することができます。



ライト先を**バリュウ・ダイヤル**で選びます(ユーザー・プログラムのみ)。そのとき、ライト先のプログラム名が一瞬表示されます。

ライトを中止するときは、EDIT ◀ **ボタン**を押して他の画面を選んでください。

BYPASS・TUNE **ボタン**を押すと、エディットしたプログラムがライトされます。

ライトが完了すると、LCDに約1秒間“COMPLT”と表示されます。

BYPASS・TUNE ボタン: ライト

バリュウ・ダイヤル: ライト先のユーザー・プログラム・ナンバーを選択

▲ エディットしたプログラムを他のプログラム・ナンバーにライトする場合は、上書きしてもよいかどうかをあらかじめ確認してください。上書きされたプログラムは消えてしまいますので、ご注意ください。

▲ プリセット・プログラムには、ライトすることはできません。

3. 工場出荷時のプログラムの再ロードのしかた
RHYTHM/AUX EFFECT **ボタン**と+ **ボタン**を押しながら、電源をONにしてください。LCDに“RELOAD?”と表示されます。



RHYTHM/
AUX EFFECT



再ロードを中止するときは、+ / - **ボタン**を押してください。再ロードされずに電源ON時の画面になり、プログラム・モードに入ります。

BYPASS・TUNE **ボタン**を押すと、工場出荷時のプログラムがユーザー・プログラムに再ロードされ(“RELOAD”と表示)しばらくすると、電源ON時の画面になります。



BYPASS・TUNE



▲ 工場出荷時のプログラムを再ロードするとユーザー・プログラムは全て書き替わりますのでご注意ください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったらまず以下のことを確認してください。
症状が改善されない場合は、お近くの販売店またはコルグ営業技術課までお問い合わせください。

1. 電源がONしない。

- * 電池が入ってますか? または、コンセントにACアダプタ - が接続されていますか?

2. 音が出ない。

- * ギター、アンプ、ヘッドホンは、それぞれの端子に正しく接続されていますか?
- * アンプの電源がONになっていて、正しく設定されていますか?
- * 接続コードは断線していませんか?
ヘッドホンを接続して音が出れば PANDORA の出力以降の接続に問題があります。
- * マスター・レベルの値が“ 0 ”または小さい値になっていませんか?
- * プログラムのレベルが“ 0 ”または小さな値になっていませんか?

- * ミュート(エフェクト・チェーンが速く点滅)になっていませんか?

すべてのエフェクトがOFF のときは、エフェクト・チェーンが消えてしまいますので、ご注意ください。

- * ギターの音をしばっていませんか?

3. FMTランスミッターを使用した場合で、音がでない、音がきたない。

- * PANDORA の FMTランスミッターがON になっていますか?
- * PANDORA と FMラジオ / FMチューナの周波数が合っていますか?
- * PANDORA と FMラジオ / FMチューナのアンテナとの距離は 3m 以内ですか?
- * FMラジオ / FMチューナの電源がON で、正しく動作していますか?
プログラムの設定によって出力音が歪む場合があります。(マスター・レベル、プログラムのレベルを調整してください。)

4. AUX端子に接続した機器からの音量が大きい、小さい、音が出ない。

接続した機器の出力レベルを調整してください。
接続した機器のライン出力ではなく、ヘッドホン端子を接続してください。

- * フレーズ・トレーナー・モードになっていませんか？
フレーズ・トレーナー・モードから抜けてください。

5. エフェクトがかからない

- * バイパス(エフェクト・チェインが点滅)になっていませんか？
- * プログラムで使用するエフェクトがONになっていますか？
同時に使用できるエフェクト・タイプに制限があります。
モードにより使用できないエフェクト(MOD、AMB)があります。

6. チューナが動作しない。

- * バイパスまたはミュートになっていますか？

エフェクト・パラメーター

DRIVE

TYPE(+ / - ボタン)		VALUE(バリュー・ダイヤル)
COMP	コンプレッサー	ゲインを設定(1...30)
TUBE	ビンテージ・タイプのオーバードライブ	
CRUNCH	マイルドなオーバードライブ	
SCREAM	エッジのきいたオーバードライブ	
HOTBOX	ミッドレンジに多くの倍音を持つディストーション	
HIGAIN	ハイゲイン・タイプのディストーション	
VALVE	ビンテージ・タイプのハイゲイン・ディストーション	
CRUSH	スムーズで伸びのあるディストーション	
SCOOP	ドンシャリ風のディストーション	
FUZZ	ファズ	

TONE

TYPE(+ / - ボタン)		VALUE(バリュー・ダイヤル)
LOWG	イコライザー(低域)のゲイン	ゲインを設定(-15...15)
HIGHG	イコライザー(高域)のゲイン	

MOD

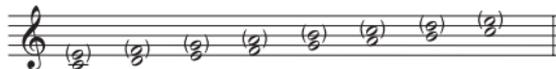
TYPE(+ / - ボタン)		VALUE(バリュウ・ダイヤル)	
CHORUS1	エフェクト音が左に、ダイレクト音が右に出力されるコーラス	効果の深さを設定(1...30)	
CHORUS2	コーラス(LFO: 三角波 ∇)	変調スピードを設定(1...30)	
CHORUS3	コーラス(LFO: サイン波 \sphericalangle)		
CHORUS4	ダブリング・コーラス		
FLANGE1, 2, 3	フランジャー(1, 2, 3 でそれぞれフィードバック量が異なります)		
FLANGE4	フィード・バックが逆相のフランジャー		
VIB	音程が周期的に変わるビブラート		
DLYVIB1, 2	ロングトーンを弾いたときに、効果が遅れてかかるディレイ・ビブラート (1, 2 でそれぞれビブラートがスタートするまでの時間が変わります)	効果の深さを設定(1...30)	
PHASER1	ピンテージ・タイプのフェイザー	変調スピードを設定(1...30)	
PHASER2	ピークが強めのフェイザー		
PHASER3	PHASER1 のフィード・バックを逆相にしたもの		
PHASER4	PHASER2 のフィード・バックを逆相にしたもの		
TREM1	トレモロ(LFO: サイン波 \sphericalangle)		
TREM2	トレモロ(LFO: 矩形波 \square)		
PAN1	オート・パン(LFO: サイン波 \sphericalangle)	感度を設定(1...30)	
PAN2	オート・パン(LFO: 矩形波 \square)		
AWAH1	オート・ワウ		
AWAH2	AWAH1 とは逆方向に動くオート・ワウ		
FIXWAH	固定されたワウ		周波数を設定(1...30)
RANDOM1, 2, 3	フィルターがランダムに動くランダム・ステップ・フィルター (1, 2, 3 でフィルターの動く帯域が変わります)		変調スピードを設定(1...30)

OCTAVE	1オクターブ下の低い音を作り出すエフェクト *和音を弾いた場合、誤動作することがあります	エフェクト・レベルを設定(1...30)
PITCH1, 2, 3	ピッチ・シフター(1, 2, 3でそれぞれエフェクト音のレベルが変わります)	ピッチ・シフト量を設定(-24, -17,
PITCH4	エフェクト音とドライ音が左右に分かれるピッチ・シフター	-12...-1, -d, d, 1...12, 19, 24) [d: デチューン]
MAJ3UP	インテリジェント・ピッチ・シフター 上3度メジャー・キー用	キーを設定(C, C#...A#, B)
MAJ3DOWN	インテリジェント・ピッチ・シフター 下3度メジャー・キー用	
MIN3UP	インテリジェント・ピッチ・シフター 上3度マイナー・キー用	
MIN3DOWN	インテリジェント・ピッチ・シフター 下3度マイナー・キー用	
PER4TH	インテリジェント・ピッチ・シフター 上4度メジャー・キー用	
PER5TH	インテリジェント・ピッチ・シフター 上5度メジャー・キー用	
MAJ6TH	インテリジェント・ピッチ・シフター 上6度メジャー・キー用	

インテリジェント・ピッチ・シフターについて

インテリジェント・ピッチ・シフターは、設定したキーと弾いた音の高さを元にピッチ・シフトの量を変化させ、音楽的に心地よいハーモニーを作ります。例えば、上3度メジャー・キー用(MAJ3UP)を選んだ場合、ピッチシフト量は音の高さによって1音半(短3度)2音(長3度)と自動的に変化します。

MAJ3UPで、キーをCに設定した場合



()内がインテリジェント・ピッチ・シフターで作られた音程

PANDORAでは3度、4度、5度、6度のインターバルをもった7種類のインテリジェント・ピッチ・シフターがあります(3度では上のパートまたは下のパート、メジャー・キーまたはマイナー・キーを選ぶことができます)。

🔊 楽器のチューニングがずれていると 予想した効果が得られません。そのようときは、楽器のチューニングをし直してください。

🔊 インテリジェント・ピッチ・シフターは、短音を弾いたときに有効です。和音を弾いても効果は得られません。

AMB

TYPE(+ / - ボタン)		VALUE(バリュー・ダイヤル)
ROOM1	厚みのあるルーム・タイプのリバーブ	エフェクト・レベルを設定(1...30)
ROOM2	明るめのルーム・タイプのリバーブ	
GARAGE1	ガレージ・タイプのリバーブ1	
GARAGE2	ガレージ・タイプのリバーブ2	
HALL	ホール・タイプのリバーブ	
ARENA	アリーナ・タイプのリバーブ	
DELAY 40...2000	ステレオ・ディレイ 40...2000[ms]	

CR(CABINET RESONATOR)

TYPE(+ / - ボタン)		VALUE(バリュー・ダイヤル)
1 × 8	8インチ・スピーカー1個のキャビネット・シミュレーション	効果の深さを設定(1...30)
1 × 10	10インチ・スピーカー1個のキャビネット・シミュレーション	
1 × 12	12インチ・スピーカー1個のキャビネット・シミュレーション	
2 × 12	12インチ・スピーカー2個のキャビネット・シミュレーション	
4 × 10	10インチ・スピーカー4個のキャビネット・シミュレーション	
4 × 12	12インチ・スピーカー4個のキャビネット・シミュレーション	

NR

		VALUE(バリュウ・ダイヤル)
NR	ノイズ・リダクション	効果の深さを設定(1...30)

プリセット・プログラム・リスト

No.	プログラム名	No.	プログラム名	No.	プログラム名	No.	プログラム名	No.	プログラム名
1	SUMMER	11	ANGUS	21	RASTA	31	CHORUS	41	OV-DRV
2	S 'R V	12	EDDIE	22	FUNKY	32	FLANGE	42	DIRT
3	OZRIC	13	FLOYD	23	R 'N 'B	33	PHASED	43	C MAJ3U
4	GOO GOO	14	ROTARY	24	BLUES	34	ARENA	44	C MAJ3D
5	WES	15	HOTROD	25	POP	35	60 'S	45	A MIN3U
6	J 'B	16	SMOKE	26	ROCK	36	70 'S	46	A MIN3D
7	E 'C	17	GARGLE	27	THRASH	37	80 'S	47	E PER 4
8	HILLAGE	18	SURF	28	SUBHARM	38	90 'S	48	E PER 5
9	JIMI	19	COUNTRY	29	FLOWER	39	COMBO	49	A MAJ 6
10	B 'B	20	JAZZ	30	FZ WAH	40	STACK	50	OCTAVE

リズム・パターン・リスト

No.	パターン名	No.	パターン名	No.	パターン名	No.	パターン名
1	METRONM	11	16 BEAT 4	21	ROCK3	31	MOTOWN2
2	8 BEAT 1	12	16 SHFL	22	THRASH	32	SURF1
3	8 BEAT 2	13	3/4	23	'R 'N 'B	33	'SURF2
4	8 BEAT 3	14	3/4 SHFL	24	'BLUES	34	REGGAE 1
5	8 BEAT 4	15	'6/8 1	25	COUNTRY	35	'REGGAE 2
6	'8 BEAT 5	16	'6/8 2	26	JAZZ 1	36	DANCE 1
7	8 SHFL	17	'POP1	27	'JAZZ 2	37	DANCE 2
8	16 BEAT 1	18	'POP2	28	FUNK1	38	EURO
9	16 BEAT 2	19	ROCK1	29	FUNK 2	39	BOSSA
10	16 BEAT 3	20	ROCK2	30	'MOTOWN1	40	SAMBA

*: このリズム・パターンのベース・ラインは、以下のようなコード進行(ベース・キーをEに設定時)をします。

6 BEAT5	Em - A
15 6/8 1	E - C#m - A - B
16 6/8 2	Em - G - A - C
17 POP1	E - A - B - E
18 POP2	E - C#m - A - B
23 R 'N 'B	E - A - Am - E - B - A - E - B
24 BLUES	E - A - E - B - A - E - B
27 JAZZ2	E - G# - C#m - B - E - A - Am - G#m - G - F#m - B
30 MOTOWN1	E - A
33 SURF2	E - C#m - A - B
35 REGGAE2	Em - D - C - D

仕様

エフェクト数: 56タイプ(最大同時使用エフェクト数: 7)

プログラム数: ユーザー50、プリセット50

入力: ギター・インプット(標準モノラル・ジャック)、AUX(ミニ・ステレオ・ジャック)

出力: ライン/ヘッドホン兼用アウト・プット(標準ステレオ・ジャック)

チューナ部

測定範囲: 27.5Hz ~ 2,093Hz(A0 ~ C7)

キャリブレーション: A=438 ~ 445Hz

リズム&ベース部テンポ: ♩=40 ~ 208

FMトランスミッター送信周波数: 88.1MHz ~ 89.9MHz(0.2MHzステップ)

電源: 単4アルカリ乾電池4本

連続約9時間使用可能(FMトランスミッターOFF、ヘッドホン使用、バックライトOFF)

連続約6時間使用可能(FMトランスミッターON、ヘッドホン使用なし、バックライトOFF)

または別売ACアダプター(コルグA30960J)

外形寸法(W × D × H): 119.5mm × 75.7mm × 26.9mm(突起部含まず)

重量: 138g(乾電池を含まず)

付属品: 取扱説明書

オプション: ACアダプター(A30960J)

外観及び仕様は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

保証規定

ご注意(必ずお読みください)

この製品は、当社の厳密な製品検査に合格したものです。万一保証期間内に製造上の不備に起因する故障の生じた場合は下記の保証規定により無償修理いたします。

保証条件

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より1年です。
 2. 次の場合の修理は保証期間内であっても有料修理となります。
 - 消耗部品(電池など)を交換する場合。
 - お取り扱い方法が不適当のために生じた故障の場合。
 - 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
 - 故障の原因が本製品以外の、他の機器にある場合。
 - コルグサービスステーション及び、コルグ指定者以外の手により修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
 - 保証書に販売店名、お買い上げ日などが記入されていない場合
 - あるいは、字句を書き替えられた場合。
 - 本保証書の提示がない場合。
 - 日本国外で使用される場合。
- 尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は保証期間外であっても、修理した日より3ヶ月以内に限り無償修理となります。

3. 保証期間が切れますと修理は有料になりますが、引き続き、製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品(電子回路など)は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品(パネルなど)の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品お取り扱い楽器店、またはコルグ営業技術課までお問い合わせください。

お願い

本保証書に販売年月日の記入がない場合は無効となります。
修理は、お買い上げの販売店に必ず本保証書を提示の上、ご依頼ください。記入不可能な場合はお買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管して下さい。

パーソナル・マルチ・エフェクト・プロセッ

保証書

(日本国内有効)

サーPANDORA PX3T

本書は上記の保証規定により無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から満1年の間に万一故障が発生した場合は製品と共に本書をお買い上げの販売店にご持参の上、修理をご依頼ください。

お買上げ日 年 月 日

販売店名

アフターサービス

上記の保証規定によりアフターサービスをいたします。アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

株式会社コルグ

インフォメーション	〒168-0073	東京都杉並区下高井戸1-11-17	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168-0073	東京都杉並区下高井戸1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825	名古屋市昭和区八事本町100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531-0072	大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F	☎(06)6374-0691
福岡営業所	〒810-0012	福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F	☎(092)531-0166

修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。

営業技術課 〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内 ☎(03)3799-9085

© 1999 KORG INC.